

砕石場は休みでゲートが閉められており、出合までずっと歩くこととなった。8:15遡行開始。すぐ5m 2段の滝。そして4, 4, 5mと続く3段の滝。ここは左から捲く。このあとも2~3mの滝が連続する。

9:20二俣。この後は水量少なく、平凡となる。天王川を下降するためには、1127m独標につめあげてから下降するのが一番合理的だが、沢が貧弱になって、地図と対照できない。結局ヤブをこいで稜線にでたが、現在地がよくわからない。やむを得ず、近くの高みにむけてヤブこぎを続行する。どうやら1161m独標の近くまでつめ上げたようで、大変なヤブこぎを強いられてしまった。(記 ...)

[タイム] 砕石場(8:15)→二俣(9:20)→稜線(10:30)

天王川右俣

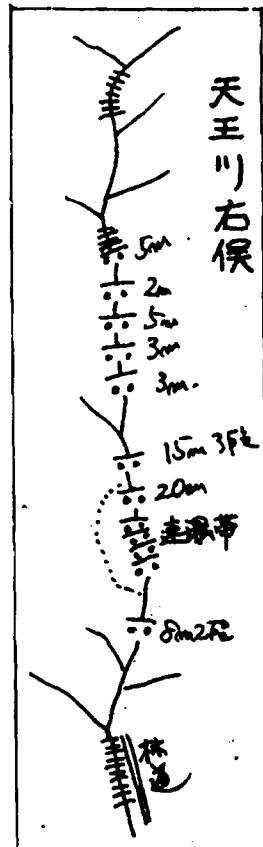
1990年9月23日

L.

栗子川左俣左沢の遡行終了後、現在地確認のため、稜線上で2時間ものヤブこぎに悪戦苦闘して、ようやく天王川の下降に移る。

沢に降りたのが12:30。二俣を過ぎると急に滝が連続し、クライミングダウンを強いられる。やがて3段15mの滝が現われる。それを降りると20m滝である。これは、その下の小滝の連瀑帯とともに、右岸を捲いて下る。途中炭釜の跡を見つける。昔はこのあたりまで来て山仕事をしていたことが偲ばれる。

2段8mのナメ流を過ぎると沢も穏やかとなり、14:10二俣を過ぎる。このあと沢は緩いナメ状となり、やがて踏跡が続くようになった。(記 ...)



[タイム] 下降開始(12:30)→下降終了(14:20)

天王川(梓沢)左俣

1990年9月23日

L1

12:10遡行開始。沢ぞいの踏跡がつきるまではずっと平凡な流れが続く。杉の造林地が終わり、沢ぞいの踏跡がはっきりしなくなると、沢にはナメと小滝が見られるようになってきた。でも、両方ともポツリポツリという感じである。そのうち沢がだんだんと細くなってきて、源頭までこんな調子でいってしまうのかなあと思いだした頃、4mのトイ状滝が出てきた。今までの滝より落差はあるが、登るにはそう苦勞しない。水流の右側を楽に直登できた。

滝の上はますます沢の規模が小さくなる。まあまあの滝が1本あったから後はもういやと話していたら、今度は4mの滝1個を含んだ連瀑が出てきた。4m滝以外は落差も小さく、別にどうということもない。4m滝は、ちょっと登れず、右岸から捲いて上に出た。

このあとはもう完全に源流の装い。沢はますます細くなってゆく。13:35、もうよかろうということになって、遡行終了とする。

(記

[タイム] 出合(12:10)→遡行終了(13:35)

茶籠沢(仮称)左俣

1990年10月14日

L

出合付近に車を置き、遡行を開始する。沢は平坦で滝は期待できそうにないが、ナメが続いて良い感じがする。沢は途中蛇行している。20分程で二俣に着く。水量比1:1である。この間の標高差は20mで、さして変化もない。地図には堰堤の記号が記されているが、確認することはできなかった。

二俣で昼食をとった後、右俣を遡行する加藤・鈴木パーティと別れて、左俣に入る。左俣に入ると、沢は極端に狭くなり、少し進むとヤブがかぶさって歩きづ

